

富士山富士宮口五合目来訪者施設整備事業について

1 要 旨

令和3年度に遺産影響評価を実施した富士宮口五合目来訪者施設整備事業について報告する。

2 遺産影響評価までの経緯

令和3年3月	富士宮口五合目における唯一の来訪者施設であった民間レストハウスが火災により焼失
令和3年度	静岡県が新来訪者施設の整備を進める方針を決定
令和4年2月	第18回世界文化遺産学術委員会において評価書案承認
令和4年3月	第15回富士山世界文化遺産協議会において評価書案承認

(当初計画案)

項 目	内 容
構造・延床面積	鉄筋コンクリート・約1,600㎡程度
機 能	(安全安心) ・災害時避難機能 ・臨時派出所 ・救護室 (理解促進) ・展示、レクチャールーム (利便性) ・登山用具レンタル、売店、飲食提供 等

(評価書の概要：令和4年3月)

区 分	内 容
富士山富士宮口五合目の在り方の整理	望ましい在り方を「神聖で美しい富士山を安全安心に体験でき、価値の理解を促進する持続可能で利便性の高い空間」と整理
事業の概要／検討過程	建設予定地、規模、機能等。県内部、有識者会議での検討プロセス
資産への影響と緩和策	視覚的、物理的、自然環境等への影響と低減のために実施する緩和策
結 論	負の影響は小さく許容範囲である一方、来訪者施設の外観の改善という正の影響があり、加えて、来訪者の安全確保やインタープリテーション（情報提供）などの面でも多くの正の影響がある。

3 遺産影響評価実施後の取組状況

令和4年3月～	基本設計
令和5年4月～	標高が高く、電源等のインフラが未整備で冬期は工事が中断する特殊な場所であり、難工事となることを見込まれることから、設計の段階から施工者の意見を取り入れるECIの公募を実施したが、プロポーザルに参加する企業がなく、現在、計画の見直しを進めている。

4 今後の対応

- ・建設予定地、規模、機能等、基本計画の見直しを行う。
- ・見直し後の基本計画案について、改めて遺産影響評価を実施する。